

令和5年度 自己評価シート（年少児）

西 風 園

【ねらい】

1人ひとりの保育士等職員が、自らの保育を振り返り、取り組んでいることの意味や良さ、効果等を認識することが基盤となり、さらにより良い保育に向けて課題を明確にしていく。

No	内 容		自己評価
1	優しい笑顔で語りかけ、心のこもった世話をしている。		○→3 △→1
2	生活リズムが身につくように、くり返し話したり、行動したりしている。		◎→1 ○→3
3	指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。		○→3 △→1
4	子どもの興味としつけのバランスを考えながら保育している。		○→4
5	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上および保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、園内外の研修に積極的に参加し、研修を通して必要な知識や技術の修得、維持および向上に努めている。		○→4
6	園全体の保育の質の向上を図るため、保育実践や保育内容、また、指導上配慮を必要とする乳幼児に関して他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。		◎→2 ○→2
7	子ども1人ひとりの理解を深め受け入れる努力をしている。	① 子どもの思いを大切にしながら対応している。	○→4
		② 食事や排泄のしつけを個々に合わせて工夫している。	○→4
		③ 心を落ち着かせるために、生活環境を整える（整理整頓）努力をしている。	○→4
		④ 禁止、命令や行動をせかしたり、自信を失わせるような言葉や態度はできるだけ控えている。	○→3 △→1
		⑤ 1人ひとりの発達段階によって可能な目標を定め、個々に合わせて支援を行っている。（個々にあった手助け）	○→3 △→1
		⑥ 子どものサインを見逃さず対応している。	○→3 △→1
8	1人ひとりの声や活動をキャッチし、全体にも気を配っている。		○→2 △→2
9	「かかわり」を意識して保育している。	① 保育士の誘いに応えることができるよう配慮している。（あやす・言葉がけをする・たしなめる）	○→4
		② 他の子どもに話しかけたり、誘ったりできる雰囲気作りをしている。	○→4
		③ 待ってもらっていることに気づいたり、待ってあげたりできる子どもを育むよう配慮している。	◎→1 ○→3
		④ 子どもが手本にしたり、真似したりできる行動を意識してとっている。	○→4
10	① 子どもが甘えられる雰囲気を持っている。（雰囲気を作る努力）	○→3 △→1	
	② 環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。（保健・衛生）	○→4	
11	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、1人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、囑託医、かかりつけ医の指示や協力の下に、適切に対応している。		◎→1 ○→2 △→1
12	保護者との連携が十分に取れている。	① 1人ひとりの保護者と、子どもの成長の喜びを共有している。	◎→1 ○→2 △→1
		② 気軽に話しやすい雰囲気作りができています。	○→4
		③ 保育内容および質問に対して、わかりやすく説明することができる。	○→3 △→1
		④ 子育てに関する相談、援助に対応することができる。	○→3 △→1
		⑤ 支援を要する保護者に対して、適切に対応することができる。	○→1 △→3
		⑥ 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。	◎→1 ○→3
13	地域との連携のあり方がわかる。	① 関係機関との連携のとり方を知っている。（保健センター、民生委員、子育て支援課など）	◎→1 △→3
		② 地域の親子を気持ちよく受け入れ、子育ての相談に応じる等、子育て支援ができる。	△→2 無→2
		③ 実習生やボランティア等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	○→4

記入方法：◎よくできている ○まあまあできている △あまりできていない ×できていない（4名中）

反省点	改善策
保護者や地域との連携では、非常勤保育士の自己評価が低い。	研修等を通して知識を深めていく。また、地域との連携の在り方については、周知を徹底する。

令和5年度 自己評価シート（3歳未満児）

西 風 園

【ねらい】

1人ひとりの保育士等職員が自らの保育を振り返り、取り組んでいることの意味や良さ、効果等を認識することが基盤となり、さらにより良い保育に向けて課題を明確にしていく。

No.	内 容		自己評価
1	朝の登園時は、家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。		◎→2 ○→3
2	体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している。		◎→2 ○→2 △→1
3	保護者から健康状態の申し出を受けるなど、乳幼児の健康状態を共有し、アレルギー、熱性けいれん、脱臼癖などの既往症について把握している。		◎→2 ○→2 △→1
4	身長・体重などの測定を定期的に行い、家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している。		○→4 △→1
5	睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）、およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。		◎→1 ○→4
6	個別指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。		○→3 △→2
7	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上および保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、園内外の研修に積極的に参加し、研修を通して必要な知識や技術の修得、維持および向上に努めている。		○→3 △→1 無→1
8	園全体の保育の質の向上を図るため、保育実践や保育内容、また指導上配慮を必要とする乳幼児に関して、他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。		◎→1 ○→4
9	乳幼児1人ひとりの理解を深め、受け入れる努力をしている。	① 乳幼児の心身の発達および生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている。	○→4 △→1
		② 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。	○→5
		③ 自分を表現する力が十分でない乳幼児の気持ちを汲み取り、安心感と自己肯定感が持てるような言葉がけをしている。	○→5
		④ 家庭と連携を取りながら、1人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。	◎→2 ○→1 △→2
		⑤ 1人ひとりの乳幼児の排泄感覚を把握し、その子の排泄のリズムに合わせてオムツ交換をしたり、トイレに促している。	○→4 △→1
		⑥ 心を落ち着かせるために、生活環境を整える（整理整頓）努力をしている。	◎→1 ○→4
		⑦ 「早くしなさい」とせかさ言葉や、「だめ」「いけません」などの禁止語は、できるだけ用いないよう心がけている。	○→2 △→3
		⑧ 1人ひとりの発達段階によって可能な目標を定め、個々に合わせて支援を行っている。（個々にあった手助け）	○→4 △→1
10	「かかわり」を意識して保育している。	① 落ち着いた雰囲気の中で、抱いたり優しい笑顔で語りかけたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。	◎→1 ○→4
		② 他のクラスの異年齢の幼児たちと触れ合えるように、様々な工夫、保育の形態を取り入れている。	○→4 △→1
		③ 子どもが手本にしたり、真似したりできる行動を意識してとっている。	○→4 △→1
11	① 子どもが甘えられる雰囲気を持っている。（雰囲気を作る努力）	◎→2 ○→3	
	② 環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。（保健・衛生）	○→5	
12	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、1人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医の指示や協力の下に、適切に対応している。		○→4 △→1
13	保護者との連携が十分に取れている。	① 1人ひとりの保護者と、子どもの成長の喜びを共有している。	◎→2 ○→2 △→1
		② 気軽に話しやすい雰囲気作りができています。	◎→1 ○→3 △→1
		③ 保育内容および質問に対して、わかりやすく説明することができる。	◎→2 △→3
		④ 子育てに関する相談、援助に対応することができる。	○→3 △→2
		⑤ 支援を要する保護者に対して、適切に対応することができる。	○→2 △→3
		⑥ 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。	◎→1 ○→4
14	地域との連携のあり方がわかる。	① 関係機関との連携のとり方を知っている。（保健センター、民生委員、子育て支援課など）	○→1 △→3 ×→1
		② 地域の親子を気持ちよく受け入れ、子育ての相談に応じる等、子育て支援ができる。	○→1 △→3 無→1
		③ 実習生やボランティア等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	○→4 △→1

記入方法：◎よくできている ○まあまあできている △あまりできていない ×できていない (5名中)

反省点	改善策
「早くしなさい」とせかさ言葉や、「だめ」「いけません」などの禁止語は、できるだけ用いないよう心がけている。」の評価が低い。 （わかってはいても、慌ただしい場面ではつい急がせることがあった）	できるだけゆったりと関わられるように保育士配置を考慮したり、時間配分にゆとりがもてるよう工夫する。
保護者や地域との連携では、非常勤保育士の自己評価が低い。	研修等を通して知識を深めていく。また、地域との連携の在り方については、周知を徹底する。

令和5年度 自己評価シート（年中・年長児）

西 風 園

【ねらい】

1人ひとりの保育士等職員が、自らの保育を振り返り、取り組んでいることの意味や良さ、効果等を認識することが基盤となり、さらにより良い保育に向けて課題を明確にしていく。

No.	内 容		自己評価
1	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています。		○→3 △→1
2	指導計画の作成にあたっては、子どもの発達過程を踏まえ、生活の連続性、季節の変化等を考慮し、子どもの実態に即した具体的ねらいおよび内容を設定している。		◎→1 ○→2 △→1
3	指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。		○→4
4	子どもの発達や興味に沿った保育内容であり、子どもが意欲的に遊べるよう配慮している。		○→4
5	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上および保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、園内外の研修に積極的に参加し、研修を通して必要な知識や技術の修得、維持および向上に努めている。		○→4
6	保育所全体の保育の質の向上を図るため、保育実践や保育内容、また指導上配慮を必要とする乳幼児に関して他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。		◎→2 ○→2
7	子ども1人ひとりの理解を深め、受けようとして努めている。	① 子どもの思いを大切にしながら対応している。	○→4
		② 温かい言葉遣いで、穏やかに話している。	○→3 △→1
		③ 自分の思いを表現する力が、まだ十分でない子どもの気持ちを汲み取っている。	○→4
		④ 禁止、命令や行動をせかしたり、自信を失わせるような言葉や態度はできるだけ控えている。	○→2 △→2
		⑤ 「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、子どもの状況に応じて対応している。	○→4
		⑥ 子どものサインを見逃さず対応している。	○→3 △→1
8	全体に気を配りつつ、特に遊びに入れない子どもへの働きかけをしている。		○→4
9	遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	① 子ども同士の関係をより良くするような言葉かけをしている。	○→4
		② けんかの場面では、状況を適切に捉え、双方の思いを大切に対応している。	○→4
		③ 年齢に応じた、社会的ルールを身につけるよう配慮している。	○→4
		④ 子どもが保育士の手伝いをしたり、友達を助けたり、協力し合う場を設定している。	◎→1 ○→3
10	① 保育士自身が楽しんで保育をしている。（楽しそうな表情ができる）	◎→2 ○→2	
	② 環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。（保健・衛生）	○→4	
11	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、1人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医の指示や協力の下に、適切に対応している。		◎→1 ○→3
12	保護者との連携が十分に取れている。	① 1人ひとりの保護者と子どもの成長の喜びを共有している。	◎→1 ○→2 △→1
		② 気軽に話しやすい雰囲気作りが出来ている。	○→4
		③ 保育内容および質問に対して、わかりやすく説明することができる。	○→2 △→2
		④ 子育てに関する相談、援助に対応することができる。	○→4
		⑤ 支援を要する保護者に対して、適切に対応することができる。	○→2 △→2
		⑥ 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。	◎→1 ○→3
13	地域との連携の在り方がわかる。	① 関係機関との連携のとり方を知っている。（保健センター、民生委員、子育て支援課など）	◎→1 △→3
		② 地域の親子を気持ちよく受け入れ、子育ての相談に応じる等、子育て支援ができる。	△→2 無→2
		③ 実習生、ボランティア等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	○→4

記入方法：◎よくできている ○まあまあできている △あまりできていない ×できていない (4名)

反省点	改善策
「禁止、命令や行動をせかしたり、自信を失わせるような言葉や態度はできるだけ控えている」の評価が低め。 (他児が長く待たされる場面で、つい急かしてしまうことがあった)	時間配分にゆとりを持つ。子どもへの声掛けや関わり方等を工夫する。
保護者や地域との連携では、非常勤保育士の自己評価が低い。	研修等を通して知識を深めていく。また、地域との連携の在り方については、周知を徹底する。